



2023 年 10 月 14 日 ツツザキヤマジノギク活動記録 花の観察会・学習会

令和 5 年 10 月 14 日（土）8 時から学習会と花の観察会を行いました。

今回から、保全地までの堤防にのぼり旗を立て、河川敷までの道順が分かりやすくなり、予定の朝 8 時には約 50 名の皆様が集まっていただきました。

最初に、保全協議会と地元北沢町長から参加者にあいさついただき、事務局から当日のスケジュール等の連絡を行いました。次に、中学生による学習の成果として 6 月から学校の総合の時間で学んだ内容の一部をボードなどを使って 5 名のが発表してくれました。参加者は中学生の取り組みを熱心に聞いておられました。



堤久先生から補足の説明をしていただき、先生には、会場に学習コーナーを開いていただきました。その後、全員で花の観察に入りました。今年は、暖かい日が続いたので開花が早いだろうと予想し、少し早めの観察会としましたが、この日の花の状態は、概ね 5 分咲きぐらい、花の見ごろは 10 月末になるかという状況でした。



保全地は、花卉の状態別にブロックに分けて管理していますが、観察会では、必ずしも、親と同じような花卉になっていない様子など、参加者は、この花の多様性を知ることができました。観察に続いて、花が枯れて種になった後、どのような形の花卉であったかを仕分けるために花卉の状態に応じマーキングも実施いただき、概ね 1 時間、学習と花の観察を行い、会を終了しました。

大勢のご参加ありがとうございました。また、中学生の皆さんも発表ありがとうございました。中学生の発表は 10 月 20 日（金）に行われる「松川町中学 3 年生と未来を語る会」においても発表される予定です。

さて、この花の希少性に関する関心が高まり、関係者が協力した保全活動は約 15 年ほど継続してきました。その間には、外来植物の進入、自生地の出水や流失、保全地の確保など様々な出来事と取り組みが行われてきました。現在、手を入れた保全地は 2 年前には、何も育っていない状態でしたが、関係者に努力により花の観察会ができる状態にまでになりました。一方、元来の自生地は、出水により失われてしまうなどの変化が起きている。今後も様々な変化が起こるでしょう。その中で工夫をしながら現在の保全地を守り、いずれ、ここから種が広がり、あたり一面にツツザキヤマジノギクが咲き誇るかつての風景になることを願っています。

最近では、県外からも保全地にお越しになられる方、お問い合わせも来ております。この花はみんなの財産です、どなたでもご覧になれますので河川敷にお出かけください。

